

ワークショップ第3回を振り返って <地域と連携した中学校づくりについて>

第3回目のワークを始める前に...

- ・第2回ワークショップでの意見を振り返ると、小学校については全体的に関心高く、地域と連携した取組も多い。地域で子どもたちを育てていくという意識が高く、実践にも結びついている状況が見て取れるが、中学校については、小学校と比べてよく知らないといった声が多く、地域と連携した取組も少ない。
- ・生野区では中学校についても学校配置の見直しを考えていくこととしており、新しい教育環境を考える上で中学校の教育環境を考えることも重要。

中学校について

・複数地域が一緒になることで地元という意識が薄れ、地域と学校の関わり・交流が少なくなるという意見が多い。また、学校からの情報発信が少ない、学校に行く機会がない、物理的要素（距離・期間）もあり、よく知らないといった状況である。

- ・子どもの成長（思春期）により、子ども自身が嫌がる・干渉されたくないといった傾向があり、保護者及び地域住民も庇護対象者として見ないようになっている。
- ・保護者においても、小学校の時と同じように入學式・運動会等の学校行事に参加することが少なく学校に行く機会が少ない。
- ・また、中学校区は、小学校のように1小学校区 = 1連合地域ではなく、複数連合地域により成っているため、地域活動の拠点となりにくく地域と連携した取組が少ないといった意見もあった。
- ・私立への進学、町会回覧で情報がまわってこない等、中学校の情報を知る機会がないという意見も多かった。

今後どのような繋がりを持てるのかということについて

・中学校区単位での地域対抗イベントや防災訓練の実施など地域連携の強化や学校情報の共有など、小学校と同様、中学校においても保護者・地域住民が学校に関心を持ち、支えていくことが大切。

- ・学校からの情報発信、町会回覧や小学校の掲示板を使用して情報共有を行う。
- ・職場体験・地域でのボランティア活動など中学生と触れ合う機会を作り、日頃から挨拶や声かけができるような環境にする。
- ・近年の防災活動に対する意識の高まりとともに、小学校だけでなく中学校区においても防災訓練などの形で地域との連携、また地域間の連携も重要だという意見が多かった。

・特に中学校においては、日常的な地域との関わりが希薄化している中で、中学校区を単位とする行事などで地域連携や情報交流を促進するなど、包括的、継続的に子どもたちを見守るため教育コミュニティの圏域を中学校区で形成することも必要である。